

反覆符号 反覆符号は繰り返し符号、または、おどり字といわれている。「ゝ」（一字おどり、一つ点）、「く」（二字おどり、くの字点）、「々」（漢字おどり、同の字点）、「ッ」（二の字点）がある。現在、かなの一字の繰り返しの場合「ゝ」、かな二字以上の繰り返しの場合「く」、漢字の場合は「々」を使っている。たとえば「あゝ」、「いよく」、「時々」などのように書くが、なるべく使わないほうがよい。特に「く」はどこから繰り返すのか、あいまいなことがあるから、かなを繰り返し返して書くとき、なお、「たゞ」、「かえすく」のように濁点をつけて使うこともある。「とじく」、「かえすく」などのように、二字おどりの場合は連濁を示すものであることは注意を要する。横書きの場合は反覆符号を使わないほうがよい。時に「く」を横に書いたりするものが見られるが、これは避けるべきである。「く」を用いるときは、「く」のかなと間違いやすいので、二字分をとって書くようにする。

傍点（∴） 脇点ともいう。「、、、」（圏点）を使うこともある。特に注意すべき語句がある場合に、その字の右側に一つずつ。あまり多いとかえって効果が薄くなる。

クォーテーション・マーク（” ”） 横書きの場合にかぎかっこの代りに用いられる。縦書きでもこれの代りに「” ”」（ダブル・ミニット）を使うことがある。

かっこ 一般には丸かっこ（ ）が用いられる。読み方を示したり、注釈や説明を補う場合に使う。説明でもあまり長くなる場合は丸かっこを使わず独立した文にすべきである。このほか、二重かっこ（ ）、角かっこ「」、袖かっこ「」、すみつきパーレン【】などがあるが、多く用いないほうがよい。山パーレンへんぎユメ《》など、フランス風の引用符を用いる人もある。